

三越伊勢丹グループ労働組合・共済会ホームページのお知らせ

支部の活動報告や、育児・介護・疾病に関するサポート情報なども、ホームページでご覧いただけます！



<http://www.imgu.or.jp>



「組合員のページ」を閲覧するには、「ユーザー名」「パスワード」の入力が必要です。

ユーザー名	企業コード + 社員番号 (8桁)	企業コード	札幌丸井三越：53 函館丸井今井：37
パスワード	im (半角)		北海道百科：48

「北海道統括支部」のページでは、メンバーズVOICEの議案書や、説明の動画を閲覧できます。

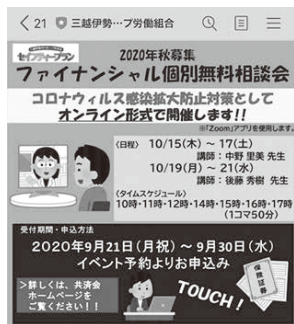


CONTENTS 目次

I. IMGU 北海道統括支部 第8期運動方針	2
II. 札幌丸井三越支部 分野別活動計画	4
III. 函館丸井今井直轄分会 分野別活動計画	8
IV. 北海道百科直轄分会 分野別活動計画	10
V. 北海道統括支部役員紹介	12
VI. 写真館	14
参考. IMGU 本部第8期運動方針	21

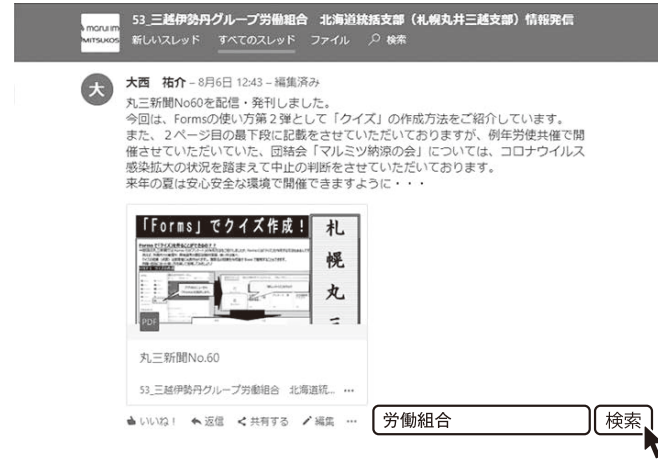
三越伊勢丹グループ労働組合 公式 LINE

組合イベントや共済会お得情報など
お知らせいたします！
友達追加は下記QRコードから↓



北海道統括支部 Yammer

活動の告知や、福利厚生に関する情報、
共済会の制度内容など、幅広い内容を発信します。
誰でもグループへの参加OKです！



三越伊勢丹グループ労働組合 北海道統括支部 問合せ先

- 札幌丸井三越支部 (北海道百科直轄分会) 住所:札幌市中央区南1条西2丁目 丸井今井札幌本店 西館2階
TEL:011-205-2525 内線TEL:22525 FAX:011-205-2524 内線FAX:22524
- 函館丸井今井直轄分会 住所:函館市本町32-15 丸井今井函館店2階
TEL:0138-32-1033 内線TEL:1033 FAX:0138-52-5808



I. IMGU 北海道統括支部が目指す姿

【目指す姿】 従業員が「誇り」と「自信」を持って働き続けられる北海道随一の企業

北海道統括支部の札幌丸井三越、函館丸井今井、北海道百科で働く人たちが、各企業で仕事のやりがいを感じ、そこで働く労働条件に満足して、働くことが出来て良かったと感じること、そして「誇り」と「自信」を持って働き続ける企業を実現する

【実現したい状態】

- ①お客さま、地域社会にとって必要とされるやりがいのある仕事に従事しており、会社全体が目指す姿に向かって前向きに協力し合い、情熱を持って取り組んでいる状態
- ②労働条件は北海道随一であり、全ての従業員が安心して働き続けられる環境がある状態
- ③従業員と経営、上司と部下、従業員間の対話や交流が図られ、関連な議論が行われる環境であり、風通しの良い社内風土である状態
- ④自分自身の成長や自己実現を実感しながら会社に貢献している状態
- ⑤社会貢献や地域支援の活動への参画や認識が広まっており、地域社会から認められている状態

【実現したい「誇り」イメージ】

- ③人に認められること



<労働組合として「誇り」を高める活動>

全ての活動の原点は「VOICE活動」メンバーの声からスタート!

メンバーの声			
	指標	活動	取り組み項目
①	【誇りの土台】 経済的安定・健康維持 ・安心安全	1.労働福祉活動	賃金、賞与、退職金、その他人事制度
		2.ダイバーシティ推進活動	職場環境、健康管理、時間管理
		3.政治活動	多様性、安心して働き続けられる環境整備
土台整備			
②	【誇りの積み上げ】 誰かの役に立っている 仕事であること	4.経営対策活動	経営チェック、営業戦略浸透、現場課題解決
		5.教育サポート	能力開発、スキルアップ、ライフサポート
		6.レクリエーション	コミュニケーション、コミュニティづくり
		7.広報	活動周知、コミュニケーション
③	社会	8.USR活動	社会的責任、地域支援

II. 第7期活動振り返り

【第7期運動方針～北海道統括支部で働くメンバー、一人ひとりの新たな「誇り」を共創する】

前期進めた活動を継続しながら、より多様なメンバーが対話によってつながることや、様々なコミュニティを構築することをさらに発展させ、メンバー同士やメンバーと組合役員が連携し、各企業やメンバーの原動力となりながら、新たな「誇り」を共に創り上げていけることを目指し活動に取り組みました。

第7期後半はコロナ禍による急激な環境変化を踏まえ、雇用や労働条件、安心安全の確保を最優先として主に経営対策・労働福祉・VOICE活動に注力しました。現場活動(教育・レク・USR、ダイバーシティ推進)は、活動方針、メンバーへの機会提供等の歩みは止めず、活動方法を変化させ取り組みました。

【分野別活動の振り返り】

①労働福祉・経営対策活動

2019年度春の交渉では、「ベースアップや一部企業の基本賞与水準向上」、通年協議では、支部として優先順位を高く掲げた「メイトスタッフ等退職金制度の導入」を実現しました。働く環境整備では、VOICEやIMGU意識調査から課題抽出を行い、上長部下のコミュニケーション活性化へ面談の実施状況改善、従業員施設等の職場環境改善、ハラスメント防止対策等の働く環境整備を進めました。

一方で、コロナ禍による環境変化を踏まえ、この状況化に対して強い危機感を持ち、雇用や労働条件の維持等を最優先としながら、労使協議に取り組みました。また「安心安全の確保」に向けて、お客さまを迎え入れる体制や従業員食堂、休憩所等の環境整備も労使一体で進めました。

②VOICE活動

各社の営業戦略浸透や提言、現場課題の解決に向けて意見集約を図り、労使委員会での共有、改善に向けた議論に取り組みました。また、メンバー接点充実や声をタイムリーに集約するため、デジタルツールを活用したスキームの構築を進め、効果性と効率性を高める運営にも取り組みました。

③教育サポート、レクリエーション、USR活動(※第8期から社会貢献活動へ名称変更)

前半は、各社でメンバー同士の対話やつながりを深める「冬の労使共催団結会」を継続開催、地域貢献として札幌は「羊ヶ丘養護園」の子どもたちとのクリスマスパーティー開催や、函館は「さゆり園」へクリスマスプレゼント寄贈活動等の交流を行いました。

後半は環境を踏まえて、団結会やキャリアセミナー等は中止となりましたが、集合や直接対話以外の方法でメンバーが主体的に選択・活用する機会提供として、初の統括支部eラーニングセミナーの開催や、自己啓発支援制度やベネフィットSTの活用促進等を進めました。また、愛の募金活動は中止でしたが、募金積立から北海道支援として「北の医療にエールを」へ寄付、支援団体の「福島の子供たちを守る会北海道」へ物品寄贈を行いました。

④ダイバーシティ推進活動

育児や介護は継続した制度や共済会補助金などの情報提供、個別対象VOICEや介護相談会など相談窓口活動に取り組みました。また、対面活動の自粛を踏まえ、ベネフィットST「介護の相談窓口」「育児相談ダイヤル」などの活用周知、本部と連携し「疾病サポート百科」の発刊も進めました。

⑤広報活動

働き方や職場環境変化を踏まえながら、メンバーへの情報発信強化を目的として支部広報の考え方や発刊方法を整理し、新たにOffice365を活用した「議案書やVOICE動画配信、福利厚生情報発信」に取り組みました。また、既存媒体の情報提供充実化を進め、特に百科では会社設立30周年を記念した「北海道百科事典」を発刊、札幌では会社と連携して「従業員名簿」を発刊しました。

⑥政治活動

上部団体のUAゼンセン、組織内参議院議員の田村まみと連携し、私たちの働く環境改善のための政策実現(悪質クレームや休日保育充実など)に向けて、周知活動に取り組みました。また、労使委員会を通じた「悪質クレーム(カスハラ)」の取り組みに向けて情報共有を行い、対策への議論も進めました。

III. 第8期運動方針

【第8期運動方針テーマ】

歩みを止めず前へ、想いをあわせ変革に挑戦

～私たち一人ひとりが、主体的・前向きに行動を起こし、未来を共創する～

【方針策定にあたっての考え方】

取り巻く環境は、かつて経験をしたことがない不透明な先行きや変化の局面にあります。企業の生き残りをかけてこの難局を乗り越えていくためには、企業活動も大きく変化させていかなければなりません。そして、私たち従業員も行動を変化させていかなければなりません。待っているだけでは、環境変化に取り残され、企業が衰退してしまうことは明白であり、それは私たちがありがたい未来ではありません。

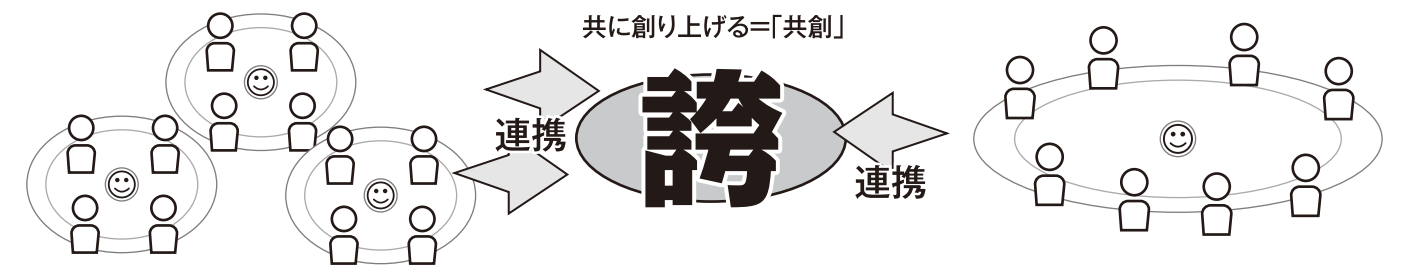
変化には多くの困難が伴いますが、私たちは現状を正しく理解し、前を向き、ありたい未来へ向かって、一丸となって取り組んでいくことが必要です。

北海道統括支部の各企業においても、未来を見据え変革に挑戦する指針であるグループ・各企業の中期経営計画や、さらなる構造改革が進められています。これらの取り組みをより良い方向へ実現させ、企業の未来を導くのは一人ひとりのメンバーの行動です。

第8期は、労働組合としてもさらに強い危機感を持ち、グループや各企業の動向を十分に確認をしながら、私たちが大切にしている雇用や、労働条件の確保に繋げる活動を最優先に取り組みます。

また、急激な環境変化に伴う現状の停滞感を打ち崩していくためにも、メンバーの主体的・前向きな行動が発揮され、多様な立場のメンバーが連携出来る環境づくりや機会提供、中期経営計画等の精度向上につなげるために必要な提言、現場課題の解決に注力して取り組みます。

【北海道統括支部「共創」のイメージ】



【重点ポイント】

①環境変化を踏まえた、土台整備・維持 【経営対策・労働福祉活動】

経営環境に強い危機感を持ち、動向を十分に確認しながら、「雇用の確保」「労働条件の維持」「安心安全の対策」等について最優先活動として、組合活動全体の活動ウェイトを見直し、特に経営対策・労働福祉、VOICE活動に注力していきます。

②中期経営計画や構造改革への取り組み 【経営対策活動】

各社の中期経営計画、構造改革の取り組みに対しては、メンバーが主体的に行動出来る環境づくり、計画の精度向上に繋げるために必要な提言、現場課題の解決に向けて、兼任役員と連携をしたVOICE活動の見直しや、労使懇話会の活性化として取り組みます。

③従業員のやりがい、働きがいを高める制度構築、働く環境整備 【労働福祉活動】

未来に各社で働くことへのやりがい、働きがいを高める仕組みとして、中期経営計画と連携した人事賃金制度構築を進めることや、グループで働くこと上でのキャリアや安心などを高める共通枠組みの整備、働く環境整備に繋げる制案化や取り組みを前進させます。

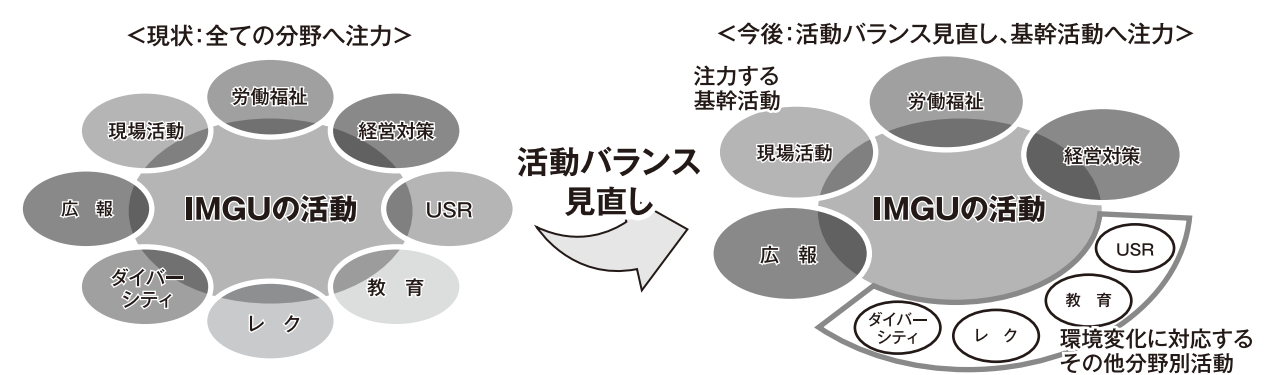
④メンバー接点の充実化 【VOICE活動】

活動の土台となるVOICE活動については、メンバーの声をより幅広く、タイムリーに吸い上げることや、双方向コミュニケーションを図れるように組織役員体制やVOICE開催方法を見直します。また、コロナ禍や働き方・職場環境の変化を踏まえたデジタル活用、意見集約方法に取り組みます。

⑤メンバーの行動・意識醸成に繋げる活動 【その他分野別活動】

その他の分野別活動については、メンバーの活力や体験など、行動・意識醸成に繋がる内容を検討し、メンバーが主体的に選択・活用出来る機会提供に取り組みます。但し、コロナ禍によって、集合や直接対話を方法とした活動を行うことが困難であることや、働き方・職場環境の変化も踏まえ、活動方法についても見直しをして取り組みます。

【活動ウェイトの変更イメージ※重点ポイント①参照】



第8期 札幌丸井三越支部 分野別活動計画

札幌丸井三越支部の活動の主なポイント

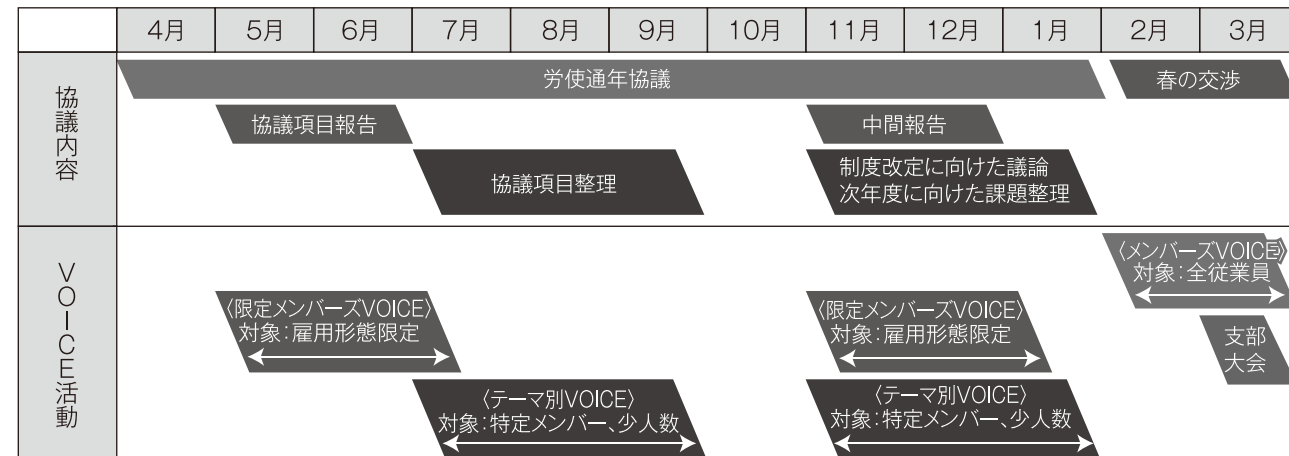
- ① VOICE活動は、メンバーの声をより幅広く、タイムリーに吸い上げることや、双方向コミュニケーションを図れるようにVOICE開催方法を見直し、メンバー接点の充実化を図ります。
- ② 経営対策活動は、経営との対話を活性化し、中期経営計画進捗や企業戦略などの情報収集を行います。その上で、現場への浸透度や実態を踏まえて、課題解決に向けた意見交換と必要な提言を行います。
- ③ 労働福祉活動は、「労働条件の維持」「安心安全の対策」を最優先しながら、働き方・環境整備を着実に進めます。
- ④ 広報活動は、タイムリーな発信を継続し、様々なツールを駆使してメンバーとの接点の充実化を図ります。
- ⑤ 教育、レク、社会貢献活動は、環境や働き方の変化を踏まえて、継続する活動含めて体系や運営方法の見直しをします。

○VOICE活動

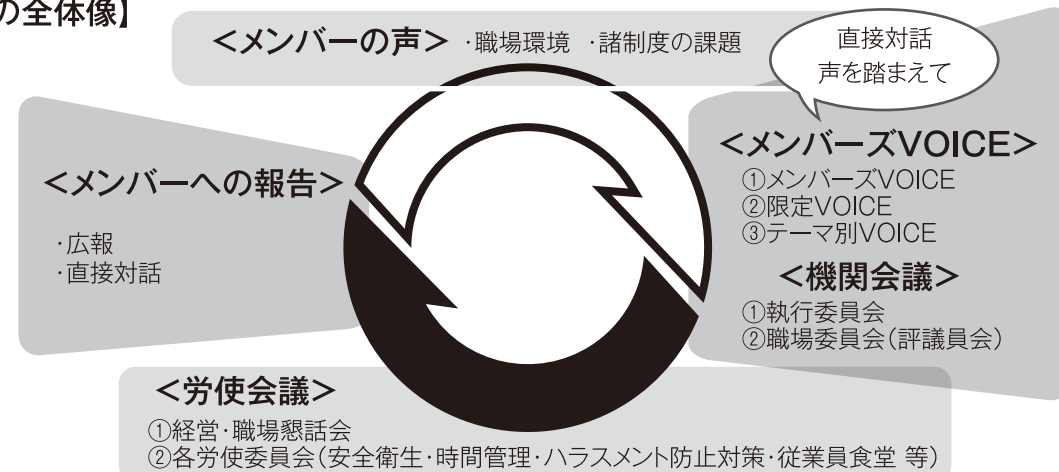
- ・組合活動の土台となるVOICE活動については、メンバーとの直接対話をこれまで以上に実現し、メンバー接点の充実化をはかることを目的に運営体制の見直しを行います。
- ・具体的には、新たに雇用区分を限定した「限定メンバーズVOICE」を開催し、Stream動画配信やForms意見集約などデジタルツールを活用しながら通年協議に関わる内容の理解促進や意見集約を図ります。
- ・また、「テーマ別VOICE」は、他の活動とも連動しながら、特定メンバーを対象に少人数で開催し、より各種制度改定に向けた意見集約や意見交換ができる場として実施します。

開催時期	活動名	対象	内容
2~3月 原則年1回	メンバーズVOICE	全メンバー	次年度の賃金要求や労働協約の締結・改廃、諸制度の成案化を最終確認。全メンバーを対象として意見集約に取り組む(春の交渉)
必要に応じて	限定メンバーズVOICE	雇用区分 限定メンバー	主に制度改定に関わる労使通年協議に対する現場課題の抽出や進捗報告。メンバーを限定することで内容の理解促進や意見交換しやすい場を設置
必要に応じて	テーマ別VOICE	特定メンバー	制度改定などの議論過程でより特定のメンバーとの意見交換を行う場合に開催

【メンバーズVOICE開催イメージ】



【基幹活動の全体像】



○経営対策活動

- ・経営懇話会や職場懇話会を通じた経営動向の確認に加えて、中期経営計画進捗や企業戦略など営業面にも密接に関わる内容の確認を兼任組合役員と連携しながら、強化していきます。その上で、取り組む目的をメンバーが正しく理解し実行精度が向上するためにVOICE活動と連携しながら都度メンバーへの情報発信を行います。
- ・また、VOICE活動や職場委員会など組合役員を通じたメンバーからの要望やアイデアについては、現場実態把握をした上で、労使間の対話を充実させることで、様々な課題解決へ繋げるよう協議に取り組めます。
- ・経営対策活動の活性化を図るために、執行部が他支部との交流できる場を提供し、情報収集や知見を高める取り組みを行います。

開催時期	活動名	参加者	内容
毎月	経営懇話会	社長 営業本部長・総務部長	経営動向や直近の営業推移、企業戦略の確認を行う。組合活動の報告や活動を通じたメンバーの声の共有と現場課題改善の申し入れなど行う
四半期毎	職場懇話会	営業本部長 外商・小型店部長・両店長	

○労働福祉活動

- ・札幌丸井三越の通年協議については、経営環境について動向を都度労使で確認した上で、「労働条件の維持」「安心安全の対策」について最優先としながら協議を行います。
- ・その上で、労使通年協議のテーマである「組織活力=エンゲージメントを高める人事賃金制度と働く環境の実現」のもと、働き方や価値観が多様化している環境を踏まえて、「会社」と「従業員」がそれぞれお互いに成長を実感し、貢献しあえる関係である組織活力(エンゲージメント)を高める協議を行います。
- ・具体的には、策定が進む中期経営計画と連携し、中長期にわたって活躍し続ける働きがいを生む仕組みに向けた議論や環境変化を踏まえた働き方の支援や環境の整備に着実に取り組みます。
- ・労使協議状況の進捗や、職場課題については、執行部や評議員などの兼任組合役員と機関会議を通じた直接対話の充実化を図った上で、人事賃金制度など諸制度構築に対する意見交換や働く環境整備に取り組めます。

【労使通年協議・重点ポイント】

＜2020年度労使協議テーマ＞ 組織活力=エンゲージメントを高める人事賃金制度と働く環境の実現

＜重点ポイント＞

1	「人=資産」従業員一人ひとりの人財価値を高める人事賃金制度の構築	・グループ共通の制度基盤整備 ・札幌丸井三越の中期計画との連動
2	社内基本ルール(社則・労務)の周知徹底と遵守に向けた取り組み	・2020年度年度計画発信、働き方目標の達成
3	従業員の安心安全につながる労働環境の整備	・コロナ禍に対する安全衛生面や働き方の支援
4	働きがい創出による職場活性化に向けた取り組み	・評価制度の納得性を高める取り組み ・雇用形態別のキャリアプラン見直しや福利厚生施設の充実

開催時期	委員会	内容
毎週	労使部会	労使通年協議項目の成案化や環境整備に向けた協議 現場状況把握や改善依頼
毎月	安全衛生委員会	法定・施設の点検と改善の確認 メンバーの健康維持、向上や働く環境の改善を推進
2か月毎	産業医巡回	産業医同行、丸井今井・三越・パークタワー3店舗などの職場巡視活動
毎月	時間管理委員会	時間外・有給休暇取得などの状況確認 時間管理ルール順守や意識醸成、働く環境の改善を推進
四半期毎	安全運転管理委員会	自動車の安全な運行や交通事故の防止へ向けて、啓発活動や講習会の開催などを推進
四半期毎	従業員食堂委員会	食堂利用実績やイベントの確認、運営やメニューに関する要望、利用促進の取り組み
四半期毎	ハラスメント防止対策委員会	ハラスメントに関する問題解決、未然に防ぐために、啓発活動や教育活動などの推進

○広報活動

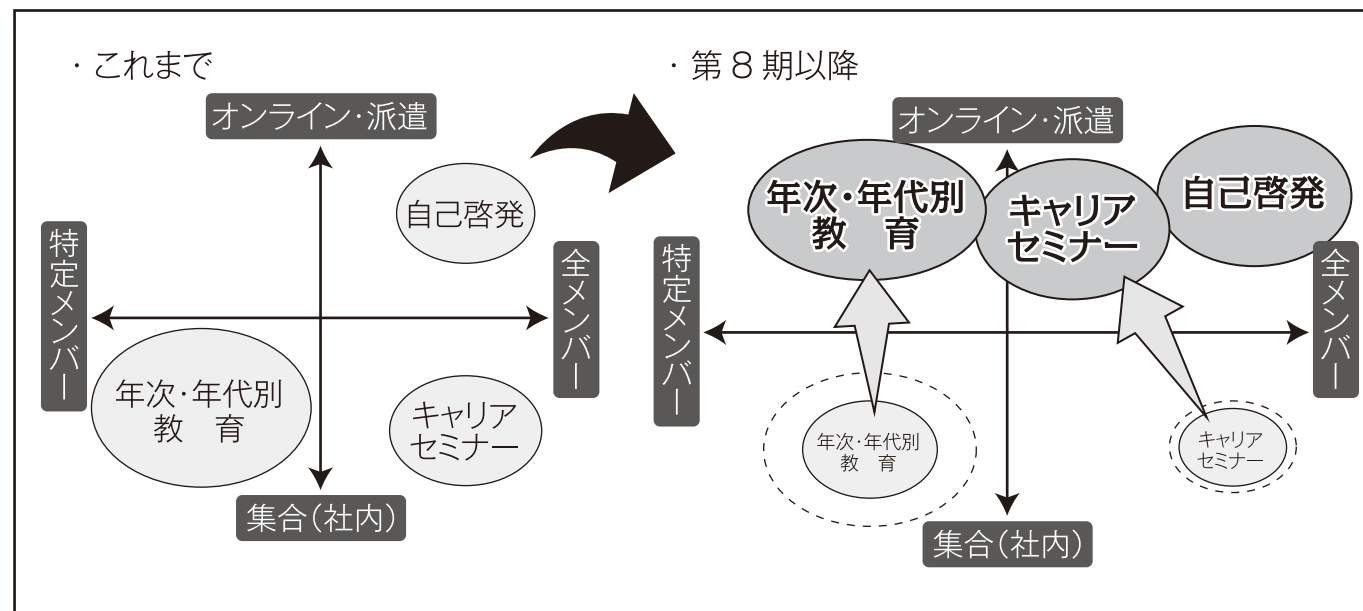
- ・第7期に推進することができたデジタル化(メール配信やYammer)によるタイムリーな情報発信でメンバーとの接点拡充を継続して取り組みます。
- ・札幌丸三新聞は、メンバーニーズや時季に沿った内容をイラスト中心にわかりやすく工夫をしながら定期発刊をします。
- ・社内SNS(Yammer)は、よいメンバーの目に触れるようSharePoint内に掲出し、各活動参加や各種サービス利用促進に繋がる発信を行うことでフォロワー数増加を図ります。
- ・公式LINEは、支部による情報発信が可能となったことから、新規友だちキャンペーンなど支部独自施策で会員数増加を図ります。

発信時期	活動名	内容
毎月	札幌丸三新聞	組合活動告知や共済会からの補助制度をわかりやすくご案内
毎月	IMGU News	労使協議会や安全衛生委員会など労使会議の報告誌
毎月	HPブログ・デジタルサイネージ	組合活動の結果報告や共済会からの補助制度のお知らせ
適宜	Yammer	Office365,組合活動の告知や共済会制度のお知らせ
週2回	公式LINE	共済会諸制度や支部活動報告、福利厚生情報の発信※支部発信可能

※各広報活動ツールのリンク先については、最終ページからご確認ください。

○教育サポート活動

- ・第7期に雇用形態別・年代別などの整理をしながら実施したユニオンプランについては、第8期から個人の自主性・主体性に重きを置いた教育体系に見直しを行い、教育機会の拡充と平等性の向上を図ります。
- ・具体的には、これまでの「セカンドプラン」「CLP①、②」に「チャレンジプラン(30代)」を加え、IMGU本部と連携したオンライン講座、セミナー動画などの教育メニューを提供することでメンバーが主体的に人生を豊かにする支援を行います。
- ・フレッシュプランについては、組合に加入した際の諸制度の理解のため、これまで通り集合型研修にて実施します。
- ・札幌独自のキャリアセミナーは、これまでメンバーの興味や参加しやすい内容を汲み取りながら、キャリアやライフの充実に繋げるセミナーを実施してきたことから、第8期も執行部と連携しながら、1年間を通して継続開催します。一方で開催にあたっては、環境変化を踏まえ、これまでの集合型のセミナー以外に、派遣型やe-ラーニング等のオンライン参加型等、様々な形式での開催に取り組みます。



開催時期	活動名	内容
四半期毎	キャリアセミナー	自身のキャリア形成や、ライフの充実に繋がる「気づき」を提供する機会
年2回 (5月、11月)	フレッシュプラン	入社1年目全雇用形態対象、組合や共済会制度の理解、同期や組合役員との繋がり、相互理解等を学ぶ新入組合員教育
各年1回	セカンドプラン	入社5年目月給制社員対象、将来のキャリアや、マネーに関する知識を学ぶ教育
	チャレンジプラン	30代月給制社員対象、グループの枠を超えた視野の拡大や自身の強み・弱みを客観的にとらえる
	キャリアライフプラン① キャリアライフプラン②	40代月給制社員対象、これまでのキャリアの振り返り、生涯を見据えたキャリア・ライフプランニング 50代月給制社員対象、これまでのキャリアの振り返り、生涯を見据えたキャリア・ライフプランニング
通年	自己啓発支援制度	2020年4月からの支援対象拡大の周知と利用促進

○社会貢献活動

- ・活動領域を「災害支援」「社会福祉」「資源・環境保護」の3つの領域に整理し、環境変化を踏まえながらそれぞれの活動に取り組めます。
- ・支援団体である「羊ヶ丘養護園」との人的交流の継続、募金活動を通じた「福島の子どもたちを守る会・北海道」への寄贈の継続を行いながら、メンバーを巻き込んだ交流支援の工夫を行いながら、支援団体のニーズに寄り添った活動を行います。
- ・地域貢献活動として、道産子スポーツ観戦レク開催の継続、さらに観戦競技を広げ、メンバー参加拡大に取り組めます。



開催時期	領域	活動名	内容
12月	社会福祉	支援団体交流活動	羊ヶ丘養護園との人的交流の開催、愛の募金の寄贈
3月	災害支援	東日本大震災の防災啓発活動	東日本大震災広報は2021年3月発刊で終了予定 独自活動として、福島の子どもたちを守る会北海道の支援
年3回	社会福祉	道産子スポーツ観戦レク	野球、サッカー、バスケットなど地域を支えるスポーツの振興を観戦を通して支援
9月	資源・環境保護	中古子供衣料回収活動	中古の子供衣料品の回収、UAゼンセンを通して東南アジアの子供たちへの寄贈
通年	資源・環境保護	リングプル回収活動	アルミ缶リングプルの回収、UAゼンセンを通して換金の後、車いすを購入し支援団体へ寄付

○レクリエーション活動

- ・メンバーの活力創出や、体験から生まれる社内コミュニティ活性化を目的とし、環境変化を踏まえながら「社内」・「社外(自宅)」・「オンライン」の3つの場所からの新しい活動スタイルに取り組めます。
- ・札幌開催のレクリエーションに参加出来ない遠隔地では、職場内懇親につながる職場懇親会補助制度の利用促進を継続します。



開催時期	活動名	開催場所	内容
年1回	ボウリング大会(共済会)	社外	ディノスノルベサ会場にて貸し切り開催
年1回	WEB体験補助	オンライン	オンライン上でつながる企画検討(WEBライブなど)
年複数回	ワークショップ体験会	社内・社外(自宅)	「趣味や学び」をテーマとした体験型レクリエーション
年1回	上部団体レク	社外	外部交流やファミリーレクとしてUAゼンセン企画への参加

※団結会については、IMGU本部方針を踏まえ、会社が企画・主催するものに対して、組合として補助を行います。
※札幌圏以外の地域を対象とした職場懇親会補助についても、IMGU本部方針を踏まえ、第8期は新型コロナウイルス終息を前提に2021年夏以降の実施を検討します。

○ダイバーシティ活動

- ・育児活動では、育児VOICEによるコミュニティ作り支援に取り組み、介護活動では、専門的な相談が出来る介護の個別相談会の定期開催を継続します。
- ・新たに発刊された「疾病サポート百科」についてのメンバー発信や組合教育の中で共有し、制度・体制の整備と職場・周囲が疾病に対して理解する土台作りを図ります。



開催時期	活動名	内容
年1回	育児VOICE	育児休職者、育児短時間勤務者対象、勤務復帰への支援やコミュニティ作り支援
年1回	介護個別相談会	介護実務者やケアマネージャーなどを招いた個別相談会
適宜	疾病に対する情報発信	疾病サポート百科を活用し組合教育や各種広報と連携して周知を強化

○政治活動

- ・UAゼンセンの組織内議員である「かわいたかのり」「田村まみ」の活動報告や周知活動を通して、私たちの働く環境改善のための政策(悪質クレーム対策や休日保育充実など)の実現に向けた活動を継続します。



第8期 函館丸井今井直轄分会 分野別活動計画

函館丸井今井直轄分会の活動の主なポイント

- ①メンバーの声をより幅広く、タイムリーに吸い上げることや、双方向コミュニケーションを図れるようにVOICE開催方法を見直し、メンバー接点の充実化を図ります。
- ②労働福祉活動は、未来を見据えて従業員の働きがい、やりがいの原動力となる仕組みづくりに向けて協議を前進させます。
- ③その他の各活動では、兼任の組合役員と連携した分会独自の活動を、環境変化を踏まえた新しいスタイルで実行する。

VOICE活動

- ・組合活動の原点となるVOICE活動を土台として、現場活動を通じたメンバーと組合役員、メンバー同士の接点強化、意見交換が出来る場づくりに取り組みます。
- ・VOICE開催については、内容に関わる対象者との意見交換を活性化するため、「限定メンバーVOICE」を新設し、運営では、デジタルツールのさらなる活用と直接対話の両立から、さらなるメンバー接点の充実化を図ります。



開催時期	活動名	対象	内容
2~3月 原則年1回	メンバーズVOICE	全メンバー	次年度の賃金要求や労働協約の締結・改廃、諸制度の成案化を最終確認。全メンバーを対象として意見集約に取り組み(春の交渉)
必要に応じて	限定メンバーズVOICE	雇用区分 限定メンバー	主に制度改定に関わる労使通年協議に対する現場課題の抽出や進捗報告。メンバーを限定することで内容の理解促進や意見交換しやすい場を設置
必要に応じて	テーマ別VOICE	特定メンバー	制度改定などの議論過程でより特定のメンバーとの意見交換を行う場合に開催

経営対策活動

- ・経営懇話会は、経営のチェック機能として活動を継続して行うと共に、VOICE活動、組合役員を通じた様々な意見集約に対して、課題解決に繋げるパイプ機能として活動を行います。
- ・年度計画や中期経営計画の策定、進捗を注視しながら、メンバーへの浸透や動向を確認し、課題や計画精度向上につなげるために必要な提言を行います。



開催時期	活動名	内容
毎月	経営懇話会	経営動向や直近の営業推移の確認、組合活動の報告や活動を通じた中でのメンバーの声の共有、現場課題改善の申し入れ

労働福祉活動

- ・2020年度の労使通年協議は、新型コロナウイルスによる影響に対する状況下に対して強い危機感を持ち、北海道統括支部として掲げる優先活動に注力しつつ、未来を見据えて従業員の働きがい、やりがいの原動力となる仕組みづくりに向けて着実に前進した協議を行います。
- ・具体的には、策定が進められている中期計画で検討する目指す組織、働き方と連動した人事賃金制度再構築、グループ共通の制度基盤整備、働く環境の安心安全対策を重点に労使協議と取り組みを行います。
- ・働く環境の整備については、各労使委員会を通して、IMGU意識調査や現場実態把握を行いながら、職場環境の改善やハラスメント防止の啓発活動などの推進、協議を引き続き行います。

【2020年労使通年協議・重点ポイント】

未来を見据えた従業員のやりがい、働きがいの原動力となる 人事賃金制度、働く環境へ向けた議論を進める

【函館丸井今井の中期計画運動】

- ・人事賃金制度の再構築
(企業戦略、組織、働き方に向けて)
- ・均衡均等待遇の整備
- ・業績安定時の労働条件水準向上等

【グループ共通の制度基盤整備】

- ・人事賃金制度の統一基本フレームの導入
- ・本給構成の再設計
- ・新賞与交渉方式の導入
- ・総実労働時間の短縮等

【働く環境整備】長期的な働きやすさ、多様な人材が活躍し、安心して働き続ける環境整備

【コロナ禍に対する取り組み】業績低迷時におけるリスク対応、働く環境の安心安全等の対応

開催時期	委員会	内容
毎月	労使部会	労使通年協議項目の成案化に向けた協議、現場状況把握や改善依頼
毎月	安全衛生委員会	法定・施設の点検と改善の確認、健康推進、ストレスチェック後の対応、職場環境の改善
四半期毎	従業員食堂委員会	食堂利用実績やイベントの確認、運営やメニューに関する要望に対する協議
年4回	ハラスメント防止対策委員会	ハラスメント防止・対策に関わる啓発活動の協議や推進

広報活動

- ・函館広報紙「海峡」では、組合各活動の告知と報告や共済会など各種サービスの内容に加えて、Office365の活用術など働き方の支援につながる内容を工夫しながら定期発信します。
- ・また、函館近郊エリアで利用できる福利厚生に関する情報についても定期的に発信し、メンバーの余暇を充実して過ごすための側面支援を行います。



教育サポート活動

- ・年代別の組合教育については、IMGU本部教育メニューや統括支部内開催のセミナーと連携した開催を行い、キャリアアップやライフプランニングの支援をします。
- ・函館独自のキャリアセミナーは、組合役員と連携し、メンバーの興味や参加しやすい内容を汲み取り、さらなるキャリアやライフの充実に繋げるセミナーを、開催方法の工夫(オンライン受講や動画配信)を検討しながら、年間を通して開催します。
- ・自己啓発支援制度は、対象講座の拡大となったメリットを広報や教育活動と連携し、制度利用促進の為に発信を図ります。

開催時期	活動名	内容
年4回(四半期毎)	キャリアセミナー	キャリアやライフの充実に繋げる函館独自のセミナー
年2回 (4月、10月)	フレッシュプラン	入社1年目全雇用形態対象、組合や共済会制度の理解、同期や組合役員との繋がり、相互理解等を学ぶ新入組合員教育
年1回	セカンドプラン	入社5年目月給制社員対象、将来のキャリアや、マネーに関する知識を学ぶ教育
各年1回	チャレンジプラン	30代月給制社員対象、グループの枠を超えた視野の拡大や自身の強み・弱みを客観的にとらえる
	キャリアライフプラン①、②	①40代②50代月給制社員対象、キャリアの振り返り、生涯を見据えたキャリア・ライフプランニング教育
通年	自己啓発支援制度	2020年4月からの支援対象拡大の周知と利用促進

社会貢献活動

- ・支援団体「乳児院さゆり園」へ、愛の募金からクリスマスプレゼントの寄贈を継続します。
- ・組合本部と連携しながら、防災意識の啓発活動に取り組みます。
- ・函館の魅力を深掘しながら、新しい形での地域貢献活動の方法を検討し、実行します。



開催時期	活動名	内容
12月	支援団体へ愛の募金寄贈活動	乳児院さゆり園へ、愛の募金活動で得た募金からクリスマスプレゼントの寄贈
3月	東日本大震災の防災啓発活動	東日本大震災が発生した3月11日に防災意識の啓発活動※2021年まで
7-8月	分会独自地域貢献活動	函館への地域貢献を目的とした活動を検討
9月	中古子供衣料回収活動	中古の子供衣料品の回収、UAゼンセンを通して東南アジアの子供たちへの寄贈
通年	リングプル、エコキャップ回収活動	アルミ缶リングプル、ペットボトルキャップの回収、社会福祉団体を通して寄付

レクリエーション活動

- ・所属内外の交流拡大を目的としたレクリエーションは、毎年好評のボウリング大会に加え、支部独自の新しいスタイルのレクリエーションの開催を検討します。

開催時期	活動名	内容
年1回	ボウリング大会	職場内の懇親を深めるスポーツレクリエーション
12月	分会独自レクリエーション	オンライン上や自宅で楽しめるレクなどクリスマスに向けて検討
年1回	上部団体レクリエーション	UAゼンセン主催レクリエーションへの参加促進



※団結会については、IMGU本部方針を踏まえ、会社が企画、主催するものに対して、組合として補助を行います。第8期は新型コロナウイルス終息を前提に2021年の夏以降の団結会開催を検討します。

ダイバーシティ推進

- ・育児活動は、育児勤務や休職者など育児に携わるメンバー交流や課題抽出の活動として、育児VOICEを継続開催します。
- ・介護活動は、不安や悩みを緩和し、前向きに働き続けられる環境づくりへ、情報交換の場や専門的な相談が出来る個別相談会を定期開催します。



開催時期	活動名	内容
年1回	育児VOICE	育児休職者、育児短時間勤務者対象、勤務復帰への支援やコミュニティ作り支援
年1回	介護個別相談会	介護に関わる有識者を招いての個別相談会
適宜	疾病に対する情報発信	疾病サポート百科を活用し組合教育や各種広報と連携して周知を強化

政治活動

- ・UAゼンセンの組織内議員である「かわいたかのり」「田村まみ」の活動報告や周知活動を通して、私たちの働く環境改善のための政策(悪質クレーム対策や休日保育充実など)の実現に向けた活動を継続します。



第8期 北海道百科直轄分会 分野別活動計画

第8期の北海道百科直轄分会の活動のポイント

- ① 組織政策として組合役員の体制や担う役割を見直し、タイムリーな現場課題の把握と現場活動の充実化を図ります。
- ② VOICE活動では、メンバー接点は維持しつつ、前期より取り組み始めたリモート開催を推進します。
- ③ 現場活動(レク・教育等)は、現在のコロナ禍の環境を好機と捉え、「オンライン」や「リモート」での開催を推進し、全国のメンバーが同水準で活動に参画できる環境整備に取り組みます。

○組織政策

- ・第8期は北海道百科在籍の書記次長をはじめとする組合役員がさらに主体的に現場活動を推進する体制を取り、組合員が求める活動の実施に繋げていきます。IMGU全体の組合役員の役割の見直しに伴い、今期より「職場区リーダー」を任命し、副委員長や書記次長と連携しながら、さらなる活動の充実と組合員の満足度の向上を図ります。
- ・新たに「職場委員」を首都圏メンバーより選出し、店舗の課題感をタイムリーに把握しながら、制度改定や働く環境改善に向けた労使協議に反映していきます。

○VOICE活動

- ・活動の原点となるVOICE活動の土台として、現場活動を通じたメンバーと組合役員、メンバー同士の接点強化、意見交換が出来る場づくりに取り組みます。
- ・更に内容に関わる対象者との意見交換を活性化するため、「テーマ別メンバーズVOICE」を実施し、運営面では、デジタルツール(動画配信、Forms)の活用と直接対話の両輪で、さらなるメンバー接点の充実化を図ります。

開催時期	活動名	対象	内容
2~3月 原則年1回	メンバーズVOICE	全メンバー	次年度の賃金要求や労働協約の締結・改廃、諸制度の成案化を最終確認。全メンバーを対象として意見集約に取り組む(春の交渉)
必要に応じて	限定メンバーズVOICE	雇用区分限定メンバー	主に制度改訂に関わる労使通年協議に対する現場課題の抽出や進捗報告。メンバーを限定することで内容の理解促進や意見交換しやすい場を設置
必要に応じて	テーマ別VOICE	特定メンバー	制度改訂などの議論過程でより特定のメンバーとの意見交換を行う場合に開催
2~3月 原則年1回	メンバーズVOICE	全メンバー	次年度の賃金要求や労働協約の締結・改廃、諸制度の成案化を最終確認。全メンバーを対象として意見集約に取り組む(春の交渉)

○経営対策活動

- ・経営状況については、毎月の労使委員会で継続確認し、北海道百科の中期計画の進捗状況についても併せて確認します。
- ・メンバーズVOICE終了後の労使委員会では、各地域の状況を経営とも共有し、現場課題の解決を図ります。



開催時期	活動名	参加者	内容
毎月	経営懇話会	社長・営業本部長・副本部長	経営動向や直近の営業推移の確認、組合活動の報告やメンバーの声の共有

○労働福祉活動

- ・労使通年協議においてはグループ指針を踏まえながらも、卸売業という業種上の特性や、現在の企業規模等も勘案しながら、北海道百科の中期計画の実現に向けた納得性の高い制度改定を目指します。
- ・具体的には、北海道百科の企業規模の拡大を見据えた、ゼネラルスタッフのステージBの本給体系やPV設定や賃金テーブル・本給水準について協議を行います。
- ・また、札幌・仙台・首都圏・名古屋と多数の地域に事業所をあることから、同じ雇用形態内での地域ごとの賃金面の公平性や、ゼネラルスタッフの転勤にまつわるルール整備についても労使協議を進めます。
- ・さらに、働く環境整備については、昨年度に引き続き教育体系の仕組みづくりに取り組むとともに、札幌丸井三越やグループ他社とも比較を行いながら、育児制度や年間所定労働時間に関しても労使協議を行います。

開催時期	委員会	内容
毎月	労使委員会	労使通年協議項目の成案化や環境整備に向けた協議、現場状況把握や改善依頼
毎月	時間管理委員会	時間外・有給休暇取得などの状況確認、時間管理ルール順守や意識醸成、働く環境の改善を推進(労使委員会時に確認)
四半期毎	ハラスメント防止対策委員会	ハラスメントに関する問題解決、未然に防ぐことへ向けて、啓発活動やセミナーの開催などの推進

○レクリエーション活動

- ・北海道百科の創業30周年を記念した活動を実施します。
- ・首都圏のメンバーについては、首都圏活動委員会が企画する活動に参加できる体制をとり、組合活動への参画機会の拡大を図ります。

開催時期	活動名	内容
12月頃	北海道百科30周年記念活動	創業30周年を記念した活動を労使で実施(内容検討中)
1人当たり年1回 都度	職場親睦会補助 首都圏企画活動	札幌以外の拠点のメンバーを対象に親睦に対する補助を行う 首都圏活動委員会が企画する活動への参加



※本部方針を踏まえ、団結会については労使共催という形式ではなく、会社が企画・主催するものに対し、組合補助を行います。
※札幌圏以外の地域を対象とした職場親睦会補助についても、IMGU本部方針を踏まえ、第8期は新型コロナウイルス終息を前提に2021年夏以降の実施を検討します。

○教育サポート活動

- ・オンライン・リモートによる新たな体系でのユニオンプランの実施や、全国での自己啓発支援制度の周知・利用促進を行います。
- ・北海道百科で扱っている商品をさらに学び・楽しむ機会として、本社の商品担当者や店舗と連携したセミナーを開催します。
- ・キャリアセミナーは、書記次長や職場区リーダーが主体的に企画・運営を行うセミナーを年間1回開催します。

開催時期	活動名	内容
都度	フレッシュプラン	入社1年目全雇用形態対象 組合・共済会制度の理解、同期や組合役員との絆作り
年1回	セカンドプラン	入社5年目月給制雇用形態対象 将来のキャリアや、マネーに関する知識を学ぶ
各年1回	CLP①・CLP②	①40代 ②50代月給制雇用形態対象 キャリアの振り返りや障害を見据えたキャリアライフプランニング
年1回	チャレンジプラン	30代月給制雇用形態対象 マネジメントに求められるスキル・知識を学ぶ
10月~	北海道産食材を学ぶセミナー	本社の商品担当者がお勧めする商品を実際に食べて、学ぶことができるセミナーを開催
年1回	キャリアセミナー	書記次長・職場区リーダーの企画・運営によるセミナー開催
通年	自己啓発支援制度	2020年4月からの支援対象拡大の周知と利用促進

○ダイバーシティ活動

- ・育児活動では、メンバーズVOICEの際の個別の実態把握、介護活動では、専門的な相談が出来る介護の個別相談会の定期開催を継続します。
- ・新たに発行された「疾病サポート百科」についてのメンバー発信や組合教育の中で共有し、制度・体制の整備と職場・周囲が疾病に対して理解する土台作りを図ります。

開催時期	活動名	内容
年1回	介護個別相談会	介護実務者やケアマネージャーなどを招いた個別相談会
適宜	疾病に対する情報発信	疾病サポート百科を活用し組合教育や各種広報と連携し周知



○社会貢献活動

- ・活動領域を「災害被災者支援」「社会福祉」「資源・環境保護」の3つの領域に整理し、環境変化を踏まえながらそれぞれの活動に取り組みます。
- ・支援団体である「羊ヶ丘養護園」との人的交流の継続、募金活動を通じた「福島の子どもたちを守る会・北海道」への寄贈の継続を行いながら、メンバーを巻き込んだ交流支援の工夫を行いながら、支援団体のニーズに寄り添った活動を行います。
- ・地域貢献活動として、道産子スポーツ観戦レク開催の継続、さらに観戦競技を広げ、メンバー参加拡大に取り組みます。

開催時期	領域	活動名	内容
12月	社会福祉	支援団体交流活動	羊ヶ丘養護園との人的交流の開催、愛の募金の寄贈
3月	災害被災者支援	東日本大震災の防災啓発活動	東日本大震災広報は2021年3月発行で終了予定 独自活動として、福島の子どもたちを守る会北海道の支援
年3回	社会福祉	道産子スポーツ観戦レク	野球、サッカー、バスケットなど地域を支えるスポーツの振興を観戦通して支援
通年	資源・環境保護	リングブル回収活動	リングブルの回収、UAゼンセンを通して換金後、車いすを購入し支援団体へ寄付

○広報活動

- ・前期に創刊した広報誌「北海道百科事典」については、メンバー同士が顔を知り、より強く繋がる機会とすることを目的に、従業員名簿として都度更新しながら発行していきます。

開催時期	活動名	活動内容
毎月	広報誌 北海道百科事典	北海道百科のメンバー紹介、組合活動告知や共済会制度の周知を目的とした広報誌を発刊
5月	従業員名簿	北海道百科の従業員名簿を発刊

○政治活動

- ・UAゼンセンの組織内議員である「かわいたかのり」「田村まみ」の活動報告や周知活動を通して、私たちの働く環境改善のための政策(悪質クレーム対策や休日保育充実など)の実現に向けた活動を継続します。



北海道統括支部 役員紹介

北海道統括支部

執行委員長 玉谷 謙一朗
 第8期組合活動は、10月8日定期本部大会を経てスタートし、北海道統括支部の活動テーマは「歩みを止めず前へ、想いをあわせ変革に挑戦」としました。

取り巻く環境は、コロナ禍によって激変、商売の厳しさは増し、グループや北海道の各企業が置かれる環境も予断を許さない状況です。この環境の長期化や、コロナ収束後も商売が元通りにならず、現状の売上や利益状況が続くようであれば、企業の存続に関するリスクがあると捉えています。コロナ禍以前から消費動向が大きく変わる中、各社課題認識を持ち進めていた商売や収益構造の見直しに向けた「中期経営計画、構造改革」を、スピードを持ち実行に移していかなければなりません。

予測不可能な環境に対して収束を待つのではなく、課題認識を踏まえて先手を打ち、環境に適応して生き残るべく、今だからこそ様々なことに挑戦してより良く変えていく、変革の歩みを推し進めることが必要です。

労働組合としても、強い危機感を持ちながら、このような環境下だからこそ、メンバーが安心して挑戦するための「労働条件、働く環境整備」や、組織全体が想いをあわせ取り組むための「風土づくり」に取り組みます。

特に、各社の計画精度向上につながる必要な提言、現場課題の解決に向けては、組合役員と連携しながら、労使協議に取り組みます。また、私たち一人ひとりが、主体的・前向きに行動を起こし、この難局を乗り越えるべく一丸となって取り組めるように、各社経営に対しては、具体的指針とともに強いリーダーシップを求めていきます。

企業をかたちづくるのは人であり、企業の未来を導くのは一人ひとりの行動です。多様な人財がいかに力を発揮し、ありたい未来を共に創ることができるように、執行部一丸となって組合活動を進めていきます。引き続き、皆さんの活動への理解、参画をお願いいたします。

副執行委員長			書記長		書記次長	
大西 祐介	赤川 一美	前田 智昭	吉田 貴彦	長谷田 皓平	松川 朋美	保利 風太
札幌丸井三越	札幌丸井三越	札幌丸井三越	札幌丸井三越	札幌丸井三越	函館丸井今井	北海道百科
組合専従	特選・宝飾時計・雑貨営業部	特選・宝飾時計・雑貨営業部	組合専従	婦人服・子供営業部	営業政策営業政策計画	営業本部営業管理

札幌丸井三越支部

執行委員						
氏名	中村 健志	秋政 涉	風林 弘紀	木村 正男	鈴木 閑	西村 優花
所属①	小型店営業部	丸井今井札幌本店	札幌三越	札幌三越	営業本部	札幌三越
所属②	きたキッチン新千歳空港店	寝具・タオル・ウィッグ	販売推進担当販売サービス	婦人靴・ハンドバッグ・MEディット	営業政策担当営業推進	紳士

執行委員			専従書記			
二瓶 棕介	小松 裕也	池田 莉央	谷脇 直幸	阿部 和加奈	小山 薫	藤巻 由美子
特選・宝飾時計・雑貨営業部	食品・レストラン営業部	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	札幌丸井三越	札幌丸井三越
婦人靴・ハンドバッグ	ギフト・スイーツプロモーション	婦人雑貨・アクセサリ	紳士ビジネス・紳士雑貨	菓子・ベーカリー	組合専従	組合専従

第1 職場区					第2 職場区				
○佐藤 大介	●三浦 拓真	●國方 はるな	●宮脇 美香	○石川 卓	○伊藤 奈緒美	○高須賀 聖子	○永田 弘美	○岡崎 さやか	●佐藤 暁子
婦人服・子供営業部	丸井今井札幌本店	婦人服・子供営業部	札幌三越	特選・宝飾時計・雑貨営業部	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	札幌三越	札幌三越	丸井今井札幌本店
販売担当	子供服・ピアス・スクリーン	婦人服・アクセサリー	婦人ヤング・キャリア	婦人雑貨・アクセサリ	婦人靴・ハンドバッグ	婦人雑貨・アクセサリ	化粧品・婦人雑貨・アクセサリ	宝飾時計・特選ブティック	化粧品・特選ブティック

第2 職場区					第3 職場区				
●鈴木 佐江子	●近藤 和絵	●小野 清華	●後藤 由香里	●桃井 雄大	●石井 里実	●大村 倫代	○泉 弘樹	○澤内 愛	○中尾 香央里
丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	札幌三越	札幌三越	札幌三越	紳士・リビング・呉服美術営業部	札幌三越	札幌三越
化粧品・特選ブティック	婦人靴・ハンドバッグ	婦人特選・店外ブティック	札幌モード	化粧品・婦人雑貨・アクセサリ	婦人靴・ハンドバッグ・MEディット	婦人特選	ギフト・スイーツ・プロモーション	紳士	リビング

第3 職場区						第4 職場区			
●原田 美由紀	●工藤 千乙里	●山野 愛	●伊沢 麻里	●門馬 めぐみ	●山田 明美	○渡辺 京子	○徳岡 好恵	○荒井 弥信	●前 和宏
丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	札幌三越	札幌三越	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	札幌三越	丸井今井札幌本店
紳士・ギフト・アクセサリー	寝具・タオル・ウィッグ	家庭用品・食器・家具	呉服・仏壇仏具	呉服・美術	リビング	紳士・ギフト・アクセサリー	和洋酒・ギフト・コーヒー	菓子・ベーカリー・フラー	和洋酒・ギフト・コーヒー

第4 職場区			第5 職場区			第6 職場区			
●江崎 美嘉	●大場 夏希	●永井 華	●高橋 二葉	●椎谷 真夕	○敦賀 篤子	●芦野 由香	○川内 晶子	●矢本 由美子	●吉竹 広美
丸井今井札幌本店	札幌三越	札幌三越	札幌三越	札幌三越	丸井今井札幌本店	丸井今井札幌本店	札幌三越	札幌三越	札幌三越
紳士・ギフト・アクセサリー	寝具・タオル・ウィッグ	菓子・ベーカリー・フラー	菓子・ベーカリー・フラー	菓子・ベーカリー・フラー	販売推進担当販売サービス	販売推進担当ギフト・サービス	販売推進担当ギフト・サービス	販売推進担当ギフト・サービス	販売推進担当ギフト・サービス

第7 職場区						第8 職場区			
○牧田 久美子	○相澤 麻里	●村下 栄久子	●渡邊 舞子	●松尾 育美	●阿部 麻衣子	●乳井 信吾	○梅津 肇	○岡本 和実	○鳥谷部 真美
外商部	外商部	外商部	外商部	外商部	外商部	外商部	総務部	営業本部	営業本部
外商第2担当営業3課	外商第1担当営業2課	外商第1担当営業2課	外商第2担当営業3課	外商戦略担当外商企画	外商戦略担当外商企画	外商第2担当営業3課	総務担当総務	営業政策担当営業戦略	ギフト・アクセサリー・プロモーション

第8 職場区									
○五十嵐 亜美	○佐々木 崇	○田丸 奈津子	●加納 由紀子	●沼田 貴子	●門脇 里江	●一條 美奈	●藤井 典子	●三上 きよみ	●大屋 瞳
営業本部	小型店営業部	三越・丸井今井札幌本店	総務部	営業本部	営業本部	営業本部	営業本部	営業本部	小型店営業部
ギフト・アクセサリー・プロモーション	営業担当	出向	人事担当人事事務	ギフト・アクセサリー・プロモーション	ギフト・アクセサリー・プロモーション	ギフト・アクセサリー・プロモーション	営業政策担当営業戦略	営業政策担当営業戦略	きたキッチン・新千歳空港店

函館丸井今井直轄分会								専従書記	
●佐々木 美佳	※白川 智也	○樋爪 智之	○吉村 大地	○宇部 真由美	○工藤 健太	○米坂 操	門野 サト子	門野 サト子	門野 サト子
小型店営業部	営業統括	営業政策	営業政策	営業本部	営業本部	営業本部	営業本部	営業本部	函館丸井今井
営業担当	外商	営業政策計画	リビング・呉服服飾	出向	外商	菓子・ギフト・和洋酒・道産品	組合専従	組合専従	組合専従

北海道百科直轄分会			
※中村 健人	○播磨 加奈子	○中村 樹里	●友定 綾香
営業本部	直営店・物産事業部	卸事業部	直営店・物産事業部
営業企画	直営店	WEB 通販	北海道とんぼろプラザ店舗

顔写真	役職
氏名	○:支部(分会)評議員
所属①	●:職場委員
所属②	※:職場区リーダー

2019年11月年末商戦も頑張らナイト



2019年11月CLP(キャリアプラン)①



2019年11月スマホ撮影セミナー



2019年11月ラッシュアップ



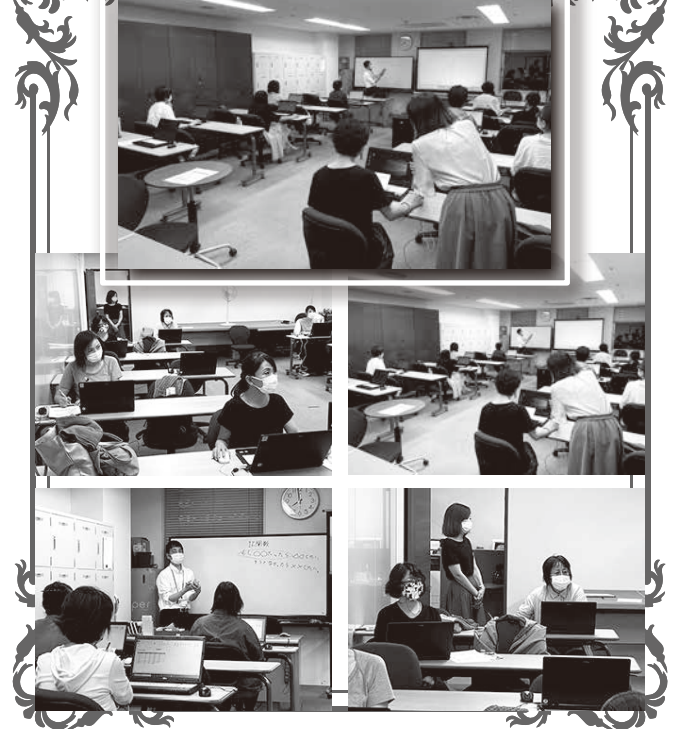
2019年12月羊ヶ丘養護園クリスマスパーティー



2020年1月CEP(キャリアプラン)



2020年8月・9月玉ヶ谷セルセミナー



2020年1月ボウリング大会



2020年度北海道支援 寄付・寄贈



福島の子どもたちを守る会・北海道



エールを北の医療へ

2020年9月 RIZAPオンラインセミナー



2020年9月 おうちで陶芸教室



写真館 函館丸井今井直轄分会

2019年11月労使共催クリスマスパーティー



2019年12月さゆり園おもちゃ寄贈



写真館 函館丸井今井直轄分会

2020年2月ボウリング大会



2020年8月ハコマル港まつりWeek!



写真館 北海道百科直轄分会

2019年12月労使共催回結会



2020年度からの三越伊勢丹グループ労働組合の自己啓発支援制度 概要および申請方法

2020年度より補助額の上限は下がりましたが、補助対象となる資格や講座が大幅に拡大されました。ぜひご利用ください。ご不明な点や、対象となるかどうかについては申請する前に一度労働組合にお問い合わせください。

対象者	・三越伊勢丹グループ労働組合を構成する企業における直接雇用従業員 ※ただし、アルバイトと学生は対象外とする
補助額	<p>組合員：総額に対して1/2年間利用上限40,000円/人 非組合員：総額に対して1/4年間利用上限20,000円/人</p> <p>・「組合員」「非組合員」についての取扱いは申請時点とし、年度中変更があった場合は組合員上限を適用 ・受験・受講ともに費用支払い後の領収書をもって申請を受け付け(合否・受講修了したかは問わず) ・年間利用累計額は毎年4月1日～翌年3月31日までに本制度の申請を行い受理された分まで ・厚生労働省教育訓練給付制度との併用可 ※別途手続きが必要なため申請前に組合に要連絡 ・実際の申請書受付日より遡って1年以内の本人名義の領収書に限定</p>
対象	<p>・資格・講座の受験料・受講料 (国家資格、公的資格、民間資格、厚生労働省教育訓練給付制度対象の資格・講座、ビジネススクール、趣味・カルチャースクール等、有料の自己啓発セミナー) ・テキスト代(資格取得条件、講座受講料に含まれる場合のみ) ※IMGUで団体の存在が確認できるものに限る ※入社前および組合加入前の受講や資格取得については対象としない ※取得した資格の更新のための受講は対象としない</p>
申請方法	<p>・申請書を組合HPからダウンロード、または各事業所の組合事務所で受け取り後、必要書類と共に提出 ※領収書原本の提出が必要なため、メールやFAXでの申請は不可とさせていただきます (必要書類) 1.IMGU自己啓発支援制度申請書(必要事項を記入) 2.かかった費用全ての領収書原本 ※本人名義であること 3.資格や口座名、費用がわかる申込書、案内書のコピー 組合HP(http://www.imgu.or.jp/) ログインID:各人の個人コード10桁 パスワード: im(ともに半角英数) ⇒ログイン後、自己啓発のアイコンをクリックすると制度内容と申請書のDLができます</p>
支給方法	・受理後、不備がなければ翌月20日を目途に本人が指定する銀行口座に振り込み
問合せ先	<p>各事業所の組合事務所または、三越伊勢丹グループ労働組合本部 ※お近くの組合事務所がわからない場合は労働組合本部へお問い合わせください。 三越伊勢丹グループ労働組合本部 (住所)〒160-0022 東京都新宿区新宿5丁目17番18号H&Iビル1F (電話)内線:801-23-911 外線:03-5273-5165 (FAX)内線:801-23-920 外線:03-5273-5177</p>

新「自己啓発支援制度」

2020年4月1日より、自己啓発支援制度内容の一部が変更となりました。

対象講座の拡大で、今まで対象外であった「各種ビジネススクール」や「語学スクール」、「カルチャースクール」等が新たに補助の対象となりました。 ※ビジネス書や新聞などの定期購読補助は対象外です。


《毎年4月1日～翌年3月31日までの申請を累積で!》

◆組合員：総額に対して1/2年間利用総額 **40,000円/人**

◆非組合員：総額に対して1/4年間利用総額 **20,000円/人**

補助金がでます!!

詳しくは、労働組合 自己啓発支援制度HP をご覧ください



三越伊勢丹グループ労働組合本部 第8期(2020年度) 運動方針

大きな環境変化を機に、私たち全員で変革を成し遂げよう!

～直接対話を通じて企業の変革を全員参加で成し遂げ、難局に挑戦する1年～

【第8期運動方針策定にあたっての考え方】

- ・三越伊勢丹グループは2018年に策定された「中期経営計画」に基づき、「百貨店ビジネスモデルの革新」「オンラインの新たなビジネスモデルの構築」「不動産事業の拡大」という3つの成長戦略と、収益基盤の確立にむけたコスト構造改革に挑戦してきました。
- ・2020年春、新型コロナウイルスの世界的な大流行により、百貨店事業をはじめ2ヵ月近い店舗の休業を余儀なくされ、2021年3月期のグループの営業利益の見通しはマイナス380億円となるなど、これまでに無い厳しい環境に直面しています。
- ・目に見えない感染症は、多くの店舗や事業の休業という営業面の障壁に止まらず、「新しい生活様式」という言葉で表現されるように、私たちワークスタイルはもちろんのこと、生活全般にも大きな変化が求められるようになりました。
- ・外部環境、内部環境ともに大きな環境変化の局面にあるなか、私たち自身がこの変化を機会と捉えて挑戦し、企業・事業の存続にむけた取り組みを強化します。また対応策等を協議する際には、雇用や生活を下支えするセーフティネットの役割を重視します。そのためにも第8期を「活動を見直し、メンバーとの対話を通じて企業の変革を成し遂げ、現在の難局に挑戦する年度」と位置づけ、以下のポイントを重点に活動を推進します。

【第8期運動方針の重点ポイント】

- ① 経営対策活動**
 - ・グループや各社の生き残りのための取組みに対して、VOICEを通じたチェックとサポートの取組み
 - ・企業や事業の構造改革に対する、本・支部連携のもと「守るべき労働条件」をふまえた意思決定
- ② 労働福祉活動**
 - ・未曾有の環境変化を受けて企業の存続と雇用を最大限確保するためのリスクシナリオの検討と対応
 - ・やりがい・働きがいの向上にむけたグループ労使協議(人事・賃金制度、働き方改革)の取組み
- ③ 現場活動**
 - ・評議員・職場委員を通じ、タイムリーにメンバーの意見を吸い上げ、職場の環境改善や課題解決する体制の確立
 - ・VOICE活動の定義や開催頻度を見直し、労使協議上の対象者の意見の吸い上げと労使協議への反映
 - ・デジタルツールの活用によるメンバーへの情報発信の頻度を高め、メンバーの意見を集約する機会の充実
- ④ 広報活動**
 - ・労働組合ホームページを内容と運用の両面で見直し、メンバーが欲しい情報を入手することのできる環境整備
 - ・LINE公式アカウントの本・支部が連携した活用によるタイムリーな情報発信と友だち数拡大にむけた取組み
- ⑤ 組合役員人財の育成**
 - ・組合役員に求められる人財像や行動規範に基づいた、人財育成体系の整備の継続
 - ・役員の実験や職務に応じた教育カリキュラムの稼働
- ⑥ 新型コロナウイルスの感染拡大防止をふまえた対応**
 - ・機関会議の開催や役員教育など組合役員間の接点や、VOICE、社会貢献、教育、レクリエーション活動などメンバーとの接点において、デジタルツールの活用によるリモートでの開催や、各社の感染拡大防止ガイドラインをふまえた活動に取り組みます。

【第8期の組織体制について】

- ① 本部の組織について**
 - ・人財育成担当を設置し、組合役員の教育体系を完成させ、実行する上での具体的カリキュラムの企画・運営を担います。
 - ・活動員会を設置し、首都圏に本拠地のある支部のメンバー動員型の社会貢献活動やレクリエーション活動を企画・運営します。
- ② 支部の組織について**
 - ・スタジオアルタ直轄分会は本社の移転をふまえ、関連グループ支部IIから関連グループ支部Iに移管します。
 - ・三越伊勢丹健康保険組合直轄分会は独自性のある活動の推進、事務所移転をふまえ関連グループ支部IIに位置付けます。

※第8期本部大会の議案書(運動方針、分野別活動、予算)については、労働組合ホームページにてご確認ください。



 **三越伊勢丹グループ労働組合**
Isetan Mitsukoshi Group Labor Union

第8期に向けた本部プロジェクト報告

I. 本部プロジェクト設置の経緯

①重視すべき活動の明確化、財政収支の改善【事業財政プロジェクト】

IMGUでは基本理念に基づき様々な分野別活動に取り組んできました。結成10年が経過し、グループを取り巻く環境は大きく変化をしています。私たちの労働条件や雇用維持、その基となる企業成長や存続に向けて、注力すべき活動の明確化、ウェイトの見直しを進めます。また、将来にわたる組織や活動の維持に向けて、財政収支の改善を進めます。

②VOICEのスキーム見直しによる、メンバー接点の充実化【VOICE改革・デジタル化推進プロジェクト】

組合活動の起点となるVOICE活動は、メンバー接点の充実化をはかり、メンバーの声をより広く、タイムリーに吸い上げ、活動に反映をしていくことを念頭におき、そのための組合役員の役割や機会会議、VOICEのあり方を見直します。また、グループ全体の働き方や職場環境の変化も踏まえ、デジタルツールを活用しながら、業務効率化をはかるとともに、メンバー接点を強化する取り組みを進めます。

II. 事業財政プロジェクト

【目的】

- ・組織全体の注力すべき事業の明確化と事業・活動ウェイトの見直しによる、人的生産性向上・業務効率化を図る
- ・事業および各種支出の見直しによる財政収支の改善を図る

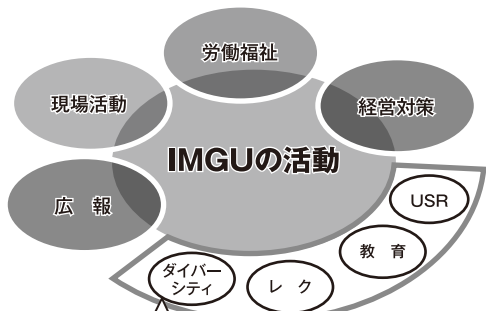
【事業・活動ウェイトの見直しイメージ】

<現状：全ての分野へ注力>



各分野別活動全てを企画し、同じウェイト(かける時間、費用、人など)で取り組んでいる

<今後：年度ごとの運動方針との連動>



基幹業務以外の活動をゼロベースで見直してコア部分の活動に特化し、基幹活動へ注力と活動ウェイトのメリハリがある組織体制へ

主な変更ポイント

- ①全体**
 - ・活動の考え方整理 ▶ 基幹活動(労働福祉・経営対策・現場活動)に注力するため、その他の活動を段階的に見直す
 - ・支部予算策定スキーム ▶ 組織全体として活動ウェイトの見直しによる活動の生産性と効果性の向上、財政収支の改善
 - ・上部団体活動への参加拡大 ▶ 上部団体活動(レク、教育等)への参加を進め、IMGUオリジナル活動ウェイト減を補完、効率化を図る
 - ・エリア合同活動の推進 ▶ 首都圏を中心に支部横断の活動を展開、地域においてもエリア在籍支部組合員へ提供をする
- ②レクリエーション**
 - ・支部オリジナルレクの内容と年間開催回数を見直し
 - ▶ 飲食メインの組合主催企画中止、年間2回へ回数変更(会社主催の団結会含む)
 - ※共済会主催のレク(スポーツレク等)に関しては、次期以降の検討とし、現行通りとする
- ③教育**
 - ・教育体系の見直し
 - ▶ 集合・必須参加型の教育体系から、オンラインをベースにした自主選択型の主体性を重視した教育体系に移行する
 - ※但し、第8期は一部組合教育(5年目、40歳、50歳時教育)は移行期間として実施予定、加えて第9期に向けて環境整備を行う
 - ・フレッシュプラン ▶ 入社時の組合教育として必須であることから継続して行う
 - ・組合本部、支部主催の視察セミナー ▶ オリジナル企画は原則中止、上部団体企画・経営対策活動等の中で必要性を見極め開催する
 - ※支部主催のキャリアセミナー(講演会等)に関しては、現行通りとする
- ④USR(※第8期から名称は「社会貢献活動」へ変更)**
 - ・名称及び、活動の基本スタンス ▶ 考え方を整理しながら名称は「社会貢献活動」へ変更、活動領域は「災害被災者支援」「社会福祉」「資源・環境保護」の3つの領域、環境を踏まえて定例活動の廃止・縮小を進める
 - ・組合本部、支部の支援団体 ▶ 新しく設定する3つの領域あわせて、支援団体を選出、支援活動を行う
 - ・組合本部、支部主催の視察セミナー ▶ オリジナル企画は原則中止、上部団体企画・経営対策活動等の中で必要性を見極め開催する
 - ※支部主催のキャリアセミナー(講演会等)に関しては、現行通りとする

III. VOICE改革・デジタル化推進プロジェクト

【目的】

- ・メンバーの声を、より幅広く、タイムリーに吸い上げるため、メンバーとの双方向コミュニケーションを重視した直接対話をこれまで以上に実現し、メンバー接点の充実化を図る
- ・メンバーとの関わり方・直接対話、兼任役員のあり方を見直し、VOICE活動や日々の既存業務の質を高めつつ効率化を図る

1. 組合役員の見直し「①執行委員」 ※組合員数に応じて選挙を行い選出

【第7期役割】

- ・支部の組合業務を分担しながら執行、VOICE運営を含めた諸活動の企画・運営を行う
- ・評議会、職場委員会の開催・運営、同役員を取り纏め活動をサポート、労使懇話会等での提言を行う

【第8期役割】

- ・変更なし
- ※但し、執行評議員が評議員へと役職変更(執行機能を解消)するため、執行委員の役割はより明確化、重要度は高める

2. 組合役員の見直し「②評議員」 ※職場区(雇用区分等)に応じて選挙を行い選出、職場区リーダー(一部活動サポート)任命も可

【第7期役割 ※名称：執行評議員】

- ・VOICE運営を含めた諸活動の運営、サポートを執行委員とともに進行
- ・一部労働条件に関わる事項について、都度開催する「執行評議員会」での議論、決議を行う

【第8期役割 ※名称：評議員】

- ・労使通年協議への取り組みを中心として、**主に人事賃金制度改訂等に関するメンバー意見集約、交換を行うとともに、月1回「評議会」での議論、決議を行う**
- ・都度開催する最高決議機関である「支部大会」にて決議を行う

3. 組合役員の見直し「③職場委員」 ※職場区や組合員数に応じて執行委員会にて選出

【第7期役割 ※名称：大会代議員】

- ・支部の最高決議機関である「支部大会」にて決議を行う

【第8期役割 ※名称：職場委員】

- ・職場風土、働く環境改善等の現場活動への取り組みを中心として、**幅広く職場課題をヒアリングし、月1回「職場委員会」にて解決に向けた議論、必要に応じて労使懇話会等での意見反映を行う**

4. 機会会議の見直し 機会会議の位置づけや附議事項再整理、意思決定・決議フローを明確化、メンバーズVOICE開催要件や扱う項目整理

①支部大会 (必要に応じて開催)	・現行規約から変更なし ・メンバーズVOICE(労働協約締結・改廃、労働条件重要事項)を開催した際は、必ず支部大会を開催し決議を行うものとする
②支部執行委員会 (原則：月1回開催)	・現行規約に加え、職場区決定、職場区リーダー選出、職場委員任命を委員会権限とする ・支部評議会への議案決定についても行うものとする
③支部評議会 (原則：月1回開催)	・現行規約をベースに、中心の取り組みである労使通年協議に関わる 主に制度改訂等の議論と決議を行う ※職場委員は本会議(決議)の構成からは外れる
④支部職場委員会 (原則：月1回開催)	・現行規約をベースに、中心の取り組みである職場風土・働く環境改善等の現場活動の議論を行う ※評議員は本会議の構成からは外れる
⑤直轄分会総会 (必要に応じて開催)	・現行規約から変更なし ※北海道統括支部の開催対象は北海道百科直轄分会のみ

5. VOICE活動の見直し 機会会議(組合役員)以外での、メンバーの理解促進や意見交換の場であるVOICEを再整理、直接対話を実施する

①メンバーズVOICE (原則：年1回開催)	全メンバー	春の交渉 労働条件重要事項	・春の交渉賃金要求時、労働協約締結・改廃、労働条件重要事項を取り扱う場合に開催する ・全メンバーを対象として、直接対話やデジタルツール等を活用しながら開催し、意見集約を図る
②限定メンバーズVOICE (必要に応じて開催)	雇用区分限定 メンバー	労使協議進捗報告 情報発信	・主に制度改訂等の労使協議の進捗報告等として開催する ・メンバーを限定し、主にデジタルツール等を活用しながら開催し、理解促進や意見集約を図る
③テーマ別VOICE (必要に応じて開催)	特定メンバー (少数メンバー)	制度改訂意見交換 分野別活動補完	・制度改訂等の議論過程で、より対象雇用区分や職場メンバーの意見反映を行う場合に開催する ・分野別活動(主に教育、育児・介護等)の取り組みの一環としても開催する